

平成26年 第5回教育委員会議
報告事項（2）

義務教育課

1. 報告事項 沖縄県学力到達度（追加）調査について

2. 目的

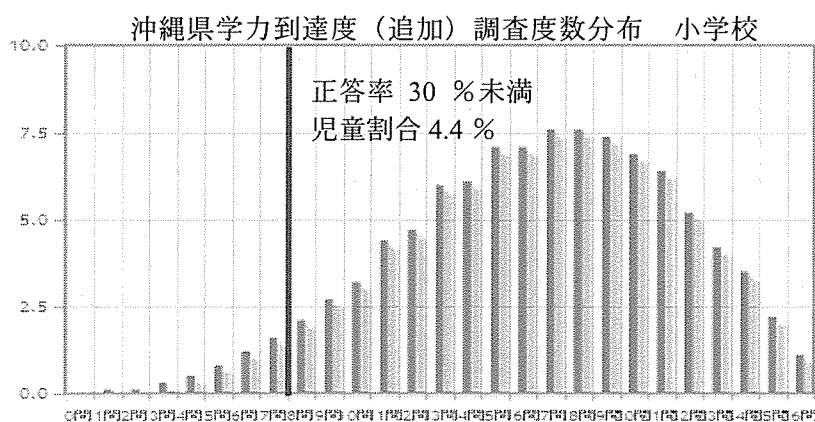
沖縄県学力到達度調査は12月に実施しており、その後3月までの学習内容の定着状況については把握していなかった。そのため平成25年度については当該学年全体の学習状況を把握するとともに12月調査で見られた課題の改善状況を把握するため3月に沖縄県学力到達度（追加）調査を実施した。

3. 調査学年・教科 小学校第5学年・算数、中学校第2学年・数学

4. 小学校第5学年算数の結果概要（平成26年3月17日現在、児童数13,362名）

平均正答率が63.2%（12月調査：68.4%）で、正答率が30%未満の児童の割合が4.4%（12月調査3.2%）である。平均正答率が低くなった要因は、12月調査で特に課題の見られた内容を出題したこと、12月調査実施以降（11月～3月）に学習した内容を加えて出題したことが考えられる。

正答率の低い設問は、わり算や分数、割合に関する設問と説明を求める記述の設問である。

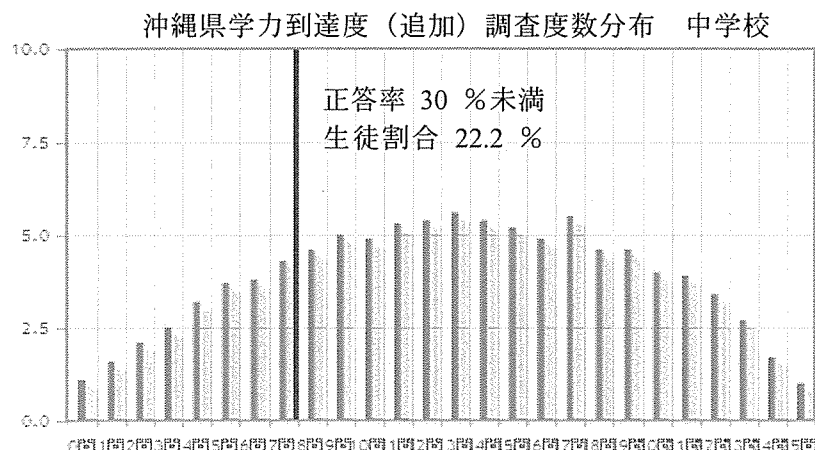


No.	設問の内容(正答率)
13	割合が100%以下のとき、基準量と比較量の大きさの関係を理解をみる問題(18.3%)
10	正六角形の性質を利用し、円周の長さを求めることができるかをみる問題(23.8%)
4	分数の意味を理解しているかみる問題(28.5%)
7	単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解しているかみる問題(29.9%)
15	折れ線・棒グラフそれぞれの特徴を基に、それらに対応していないことを読み取り、その違いを言葉と数を用いて記述できるかをみる問題(36.1%)

5. 中学校第2学年数学の結果概要（平成26年3月17日現在、生徒数11,909名）

平均正答率が51.5%（12月調査：47.5%）で、正答率が30%未満の生徒の割合が22.2%（12月調査25.4%）である。正答率が30%以下の設問6問の内、方程式の立式、ヒストグラム、確率の設問が各1問、説明と証明の問題が3問となっている。小学校の課題と同様に数学的に筋道を立てて説明したり証明したりすることに課題が見られる。

なお、中学校の設問1(1)（正答率78.9%）は、小学校の設問1(5)（正答率88.5%）と同じ分数の足し算である。中学校の正答率が低いことから継続的な指導が必要である。



No.	設問の内容(正答率)
14(2)	文字式を計算し、9の倍数であることを説明することができるかをみる問題(10.3%)
15(2)	三角形の合同を証明できるかをみる問題(15.8%)
3(2)	方程式を立式することができるかを見る問題(18.7%)
12(1)	ヒストグラムから相対度数を求める問題(28.3%)
15(1)	平行四辺形の条件(31.5%)
13(2)	3枚の硬貨を同時に投げる時の確率を求める問題(31.7%)